



保護者の負担を軽減し、安心して子どもを預けられる体制の整備に支援 放課後児童クラブと高崎学童

放課後児童クラブに関するさまざまな課題を解決するため、令和7年4月に放課後児童クラブ支援課を新設。さらに10月には「一般社団法人高崎学童」が設立されました。今回は高崎学童理事長やクラブを利用する保護者、支援員の方と一緒に、クラブ運営の現状や課題解決に向けた市の取り組みについてお話しします。

放課後児童クラブが抱える課題

市長 放課後児童クラブ（以下「クラブ」）は、共働きの世帯が増える中で、子どもが1人で家にいるようなことを避けたいということから、放課後に子どもを預かる施設として始まりました。高崎市内には105か所あるのですが、これまでは地域や保護者を中心とした「地域運営委員会」に運営を委託する仕組みでやってきました。しかし、クラブではいろいろな課題が山積みです。支援員の採用や処遇、お金の管理など、運営に関することで苦労されている保護者の方から何とかしてくれないかという意見がありました。それなら正面から対応していこうと考え、保護者の負担を軽減するために、それぞれのクラブが外部へ委託するかどうかを選択できる「選択的委託制度」の運用を決めました。山口さんと伊藤さんはクラブを利用されている保護者の方ですが、クラブのことで困ったことはありましたか。

山口 昨年まで保護者会長をしていました。自分の仕事や家事、育児をしながらクラブの運営に携わっていたのですが、人事や苦情対応など大部分の窓口が会長だったので、仕事が終わった後に、もう一つの仕事として会社の経営をしているようでした。こういった負担が少なくなってくるといいなと感じていました。

伊藤 私も昨年度保護者会長をやっていましたが、業務の中で大変だったことの一つは、人事に関することでした。新しい支援員さんを決める時に面接をするのですが、人事の仕事をしたことがないので、信頼できる人なのかを判断するのにとても苦労しました。

市長 クラブの運営の仕事が多く、自分の子どもとの時間が少なくなってしまうですね。家族の支えもありましたか。

山口 仕事が終わってからクラブの運営会議を2～3時間

したり、相談を聞いたりしていたので、どうしても自分の子どもとの時間は少なくなっていました。家族は応援してくれました。

市長 家族の協力はありがたいですね。クラブの利用希望が多いところは入所できないという話も聞きましたが、伊藤さんのところは希望する子どもは全て受け入れているのですか。

伊藤 定員が超過していることなどから、保護者の方から入所の相談を受けても泣く泣くお断りすることがありました。保護者の方の気持ちも分かるので、入所させてあげたいところをお断りするのはとても心苦しく、心理的に負担でした。今回、うちのクラブは市に建物を整備していただいたのでとてもありがたかったです。

支援員の処遇改善

市長 塚沢・城東・桜山小で定員に対して人数が超過しているという状況があると分かって、すぐに拡充しようと考えました。細川さんは今も役員をされているのですか。

細川 昨年は保護者会長、今年は顧問として携わっています。会長の時には、新しい支援員さんの面談から運営に関わることで、全般を担っていました。その中でも、支援員さんの給与を決めなければならないことが一番辛かったです。日々感謝しているので、十分な給与を払いたい気持ちはあるのですが、そんなに多くの予算は割けないので、役員はずっと頭を悩ませていました。

市長 皆さん苦労されてきたんですね。支援員を確保するだけでも大変なのに、給与のことも考えないとならないのはとても負担だったと思います。そういう声をいただいたので、支援員を確保するために、支援員の給与改善の補助事業を来年度から始めようと考えています。武藤さんも、



富岡 賢治市長

放課後児童クラブに関する課題を解決するため、クラブ運営の選択制の考案や高崎学童の設立など、全国に先駆けて取り組む



小見 勝榮さん

高崎学童理事長。40年以上にわたりクラブ運営業務に最前線で取り組んできた



武藤 直子さん

平成27年からクラブの支援員として勤務。子どもたちの育成支援に携わってきた



山口 妃呂子さん

クラブを利用する保護者。昨年保護者会長を務めた。小学生2人と4歳の子を持つ



伊藤 理恵子さん

クラブを利用する保護者。小学生の子を2人持ち、保護者会長を経験



細川 真紀さん

保護者会長やクラブ運営委員会役員として携わる。小学生と4歳の子を持つ

支援員として大変なこともあったでしょう。

武藤 クラブに預けている保護者の方から声をかけていただいて、経験はなかったのですが支援員を始めました。支援員の力だけではどうにもならない時には、保護者役員さんの力を借りて相談させていただいたり、「こんなことで困っています」とメールをしたりして、皆さんにご協力いただいています。

選択的委託制度で保護者の負担軽減に

市長 保護者の皆さんの負担を軽減するための「選択的委託制度」は、それぞれのクラブで考え方があってと思いますので、お金のことだけ、支援員の募集だけとか、部分的な委託もできるようにしました。市が出資した法人「高崎学童」も委託団体の一つです。その理事長である小見さんは、40年近くクラブを運営されてきました。クラブの運営に関する問題や今回の選択的委託制度についてどう思いますか。

小見 昭和59年に個人でクラブを始めました。当時はこういう取り組みが定着していなくて、3年経っても5人しか子どもがいなかったんです。そのうちに、他の地域から引越してうちのクラブに通うような子どもが増えていきました。全国的にクラブはいろいろな問題を抱えていて、うまくいかないところが多いんですよ。そういった中で、高崎のように行政が法人を作って、さまざまな問題をクリアしながらクラブの運営を進めていくっていうのは、全国的にもあまり例がなく実験的なところがあるかもしれないですけど、非常にありがたいことです。

市長 細川さんと武藤さんのクラブは委託を考えているとのことですが、利用することに対して議論はありましたか。

細川 うちのクラブは全部委託をしようと思いました。

1年ごとに役員が変わっていくので、やっと分かってきたところで、役員が交代になるんです。自分の仕事もある中で役員を長く続けていくのは難しく、安定したクラブ運営をするには継続した運営ができる形がいいのでは、という結論になりました。

武藤 9月に制度についての説明会があった時点で、支援員も保護者役員も本当にいい施策だなということで、私たちも全部委託に決めました。会長さんもさることながら、会計の方は保育料の督促もしなければならないので、精神的な負担は大きかったと思います。飛びつくようにお願いしますという感じでした。

小見 保護者役員や支援員の方は、本当に一生懸命やっています。しかし役員は2～3年で交代してしまう。クラブを円滑に運営するには、やはり継続した役員さんの力が必要ですね。運営に関する諸問題を高崎学童に委託すれば、役員や支援員は事務的な煩わしさから解放されて、支援員の研修や子どもの保育にしっかり取り組める。そういった環境づくりが大切です。クラブにはそれぞれ積み重ねた歴史があり、委託も全部いっぺんに、とはいかないと思いますが、じっくり取り組んでいきたいですね。

市長 高崎学童には、市や人材紹介会社と連携して人材の募集、確保、クラブへの紹介をしていただきたいと思います。共働き世帯が増加する中で、クラブの利用希望者は増えると思います。保護者が安心して子どもを預けられるような支援をしていきたいと考えています。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

対談の様子を動画で
ご覧いただけます

